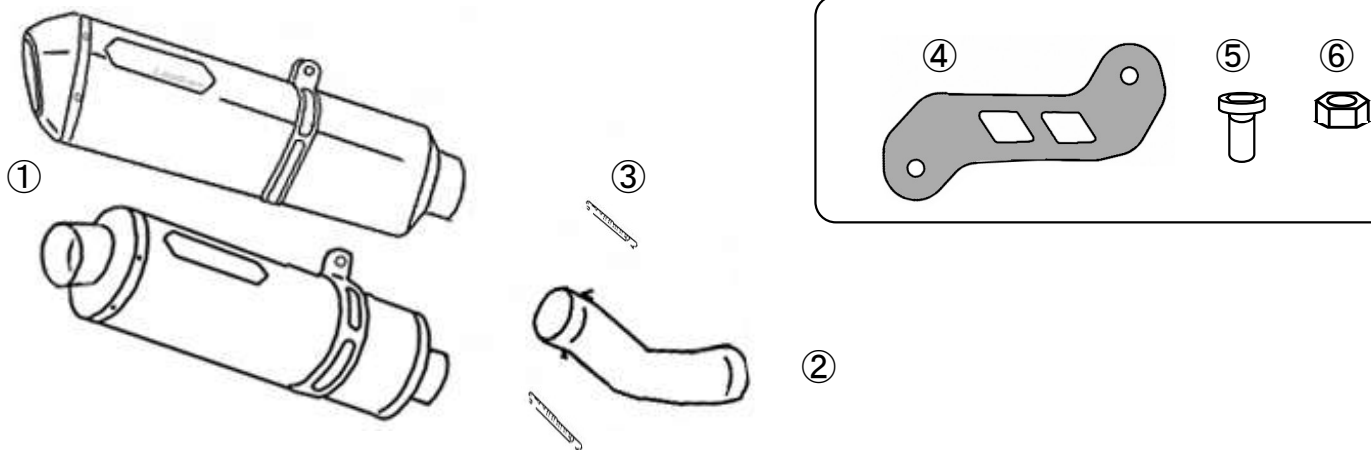


この度は、弊社製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

取り付けに関しましては、メーカー発行のサービスマニュアル及び当説明書の指示に従って作業を行ってください。作業は必ずエンジンが冷えた状態で、且つ車体が安定した状態で行ってください。このマフラーは、国内モデルNinja1000SX/1100SX (2BL-ZXT02K/8BL-ZXT02K/8BL-ZXT10H)用の商品です。その他の機種(車両型式)に関しては、装着確認及び車検対応の確認を行っておりませんのでご注意ください。取り付け作業に関して、ご不明な点などございましたら、当社までお問い合わせ下さい。

※当マフラーは純正触媒がそのまま残る仕様の為、車検の際に排ガス試験成績証明書等は必要なく付属しておりません。

車検の際、純正触媒の位置等の説明が必要な際はサイレンサーに添付の純正触媒使用確認書をご利用下さい。



1) 純正パニアケース遮熱板の取り付け

パニアケースの遮熱板をお持ちの場合は取り付けしてください。遮熱板をお持ちで無い場合は市販の断熱テープ等をパニアケース底に貼るなどしてケースへの熱害を防ぐ事をお勧めします。

2) 純正マフラーの取り外し

純正のマフラーガード及びマフラー(サイレンサー)を取り外します。取り外した純正ボルト・ナット類の一部はノジママフラー取り付けの際にも使用しますので無くさない様御注意下さい。

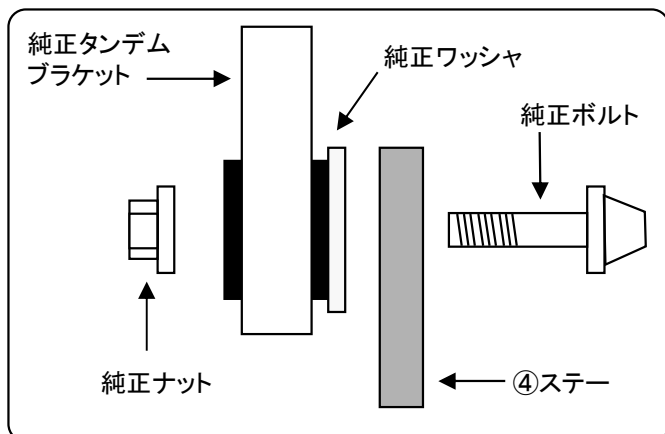
※マフラー・その他純正パーツの脱着方法に関してはメーカー発行のサービスマニュアルの指示に従って作業を行ってください。

パーツリスト(梱包内容)

図番	パーツ名	数量
①	サイレンサー & バンド	1
②	テールパイプ	1
③	スプリング	2
④	ステー	1
⑤	ボルト ボタンキャップM10-20	1
⑥	ナット セルフロックM10	1

3) サイレンサーステーの取り付け

④ステーを純正のボルトナットを用いて車体に取り付けます。(この時点では仮留めにしておきます)



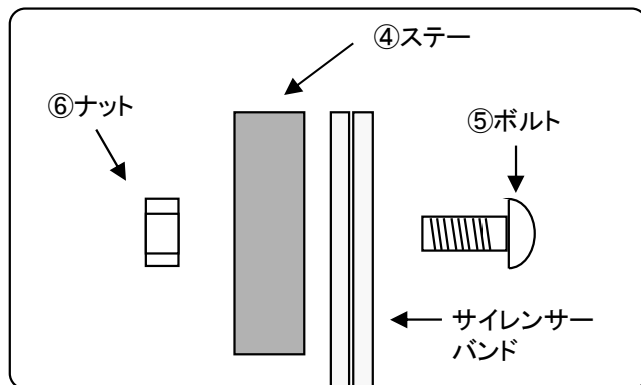
4) テールパイプの取付け

②テールパイプを純正パイプに差し込み純正クランプバンドで仮留めします。

※差し込み部ガスケットは脱着毎の交換を推奨します(純正品番:11061-0448)

5) サイレンサーの取付け

①サイレンサーを②テールパイプに差し込み、⑤ボルト・⑥ナットを用いてサイレンサーバンドで④ステーに仮留めし、スプリングを掛けます。マフラー各部に無理な力が掛かっていないこと、車体との干渉がない事を確認し、必要があればサイレンサーバンドの位置や④ステーの角度、②テールパイプの角度等で調整を行い、仮止めしたボルトナットを本締めします。テールパイプとサイレンサーの位置関係はスプリングフックの位置関係を参考にして下さい。締め込み具合により車体とのクリアランスが変化するためありますので、注意して下さい。最後に純正クランプバンドでテールパイプ差込み部を本締めします。



※右上図は車体後方から見た図です。模式図の為、ボルト・ナット等の形状が実際とは異なる場合があります

※サイレンサー差込み部には排気漏れ防止の為、シリコンボンド等を薄く塗布する事をお勧めします。

※スプリングはペンチ等を用いて作業すると折損の原因になりますので、必ずスプリングフック等をご使用下さい。



注意: パニアケースを使用する場合は、ケースとサイレンサーのクリアランスが十分ある事を必ずご確認ください。

注意: 純正マフラーでは取り外して使用する純正パニアケースの遮熱板は取り付けてご使用下さい。

6) 最終確認

以上で作業は終了です。マフラーに付着した汚れをよく拭き取った上でエンジンを始動し、排気漏れ等がない事を確認し、必要があれば修正を行って下さい。

7) セッティングについて

このマフラーはすべてスタンダードの状態では性能を発揮するよう設計されておりますので、基本的にセッティングは不要です。(より突き詰めてセッティングを行う事でより良い結果を得られる場合はございます)

- グラスウール(消音材)は消耗品です。主な消耗の例としては、「排気圧によるグラスウールの飛散」、「カーボン(スス)の堆積による目詰まり」、「水分を含む事による消音能力の低下」、等があり、消耗の進み方は走り方や環境によって大幅に変わります。グラスウールの飛散はほぼ使用期間に比例しますが、その他のケースは使用状況によってはごく短期間で発生する場合があります。主な原因は吸気系/点火系の不具合や乗り方によるカブリ症状から起こるカーボンの堆積、雨水や燃焼時の水分が排出されずにいる事から起こる水分の滞留などです。カーボンの発生は定期的なメンテナンスやカブリさせない乗り方を意識する事で防ぐ事ができ、サイレンサー内に一時的に溜まった水分は、高回転域を使用する事で蒸発→排出されますので、定期的に適度に回して乗る事で解消する事ができます。(スピード違反を推奨するものではありません。安全に法令遵守の範囲でお願いします。)
- グラスウールが消耗した状態での走行は周囲の迷惑になるだけでなく、マフラー及び車両の故障に繋がる場合がありますので、音量の増加等、グラスウール消耗の症状が表れた際はサイレンサーのオーバーホールサービス(有償)をご利用ください。
- 走行時、走行後は大変マフラーが高温になっています。火傷にお気を付け下さい。
- シンナー等の強力な有機溶剤は本製品には使用しないで下さい。
- 本製品は純正触媒を取り外しませんので、排気ガス検査成績書は付属していません。
- 転倒等に伴う修理に関しましては、状態によりお受けできる場合と出来ない場合がございます。電話・メール等にてお問合せ下さい。その他ご不明な点ありましたらお気軽にお問い合わせ下さい。